

令和7年(2025年)12月 青果部 主要品目の市況

	種類	品名	市況の概要	2025年12月 数 量 (トン)	2025年12月 平均単価 (円)	前年同月比 数 量	前年同月比 平均単価
1	野 菜	大 根	神奈川県産、千葉県産中心の入荷でした。前年が高単価であったため、大きな特売が入らず荷動きが停滞したため、数量・単価ともに前年を下回る結果となりました。数量は減少、平均単価はかなり安く推移しました。	710	81	88%	62%
2		はくさい	茨城県産中心の入荷でした。生育良好のため数量増となったが、前年の高単価の影響で荷動きが停滞し、単価安となりました。数量は増加、平均単価はかなり安く推移しました。	1,183	53	119%	63%
3		きゅうり	宮崎県産、埼玉県産、群馬県産、千葉県産中心の入荷でした。関東地方で抑制栽培された作物の収穫時期が早く、前年に比べ数量減となりました。数量、平均単価ともにやや減少しました。	163	498	93%	91%
4		ね ぎ	埼玉県産、栃木県産中心の入荷でした。前年は遅れ気味の入荷により高単価となったが、本年度は例年並みの入荷となったため、数量はかなり増加。平均単価は安く推移しました。	233	464	138%	82%
5		馬鈴薯	夏場の高温障害の影響による品質低下等で入荷が少なく、高単価の推移となりました。数量は平年並み、平均単価は大幅に高く推移しました。	255	310	98%	172%
6	果 実	みかん類	前年は愛媛県を中心とした西南暖地で猛暑による生理落果の多発等により、歴史的な数量減・高単価での推移となったが、今年度は令和5年度に近い動向で推移しました。一方で、品質や売り方出し方等で産地や銘柄格差が大きかった年でもありました。数量はかなり増加、平均単価は安く推移しました。	1,136	341	133%	82%
7		りんご類	主力産地の青森県のサンふじが下方修正となり、産地から強い価格要請があったが、その価格に対応できない場内顧客が多く、比較的価格が安定している山形県産・長野県産を可能な限り入荷しました。数量は平年並み、平均単価はやや安く推移しました。	135	413	98%	91%
8		いちご類	前年は秋の天候が暖かく生育が早まり、11月にピークが来てしまったため、今年は苗の定植を遅らせた産地が多数でした。それでも福岡県産は11月の方が多かったが、栃木県を中心とした関東産等は12月中心の入荷に戻った産地が多数でした。前年同月は店売りを中心に欠品が多発したが、今年は需要期に対応することが出来ました。数量は増加、平均単価はやや高く推移しました。	49	2,792	114%	105%

【増減基準】

- ①並み、横ばい:(+)-0~2%
- ②やや増加(減少):(+) 3~10%
- ③増加(減少):(+) 11~20%
- ④かなり増加(減少):(+) 21~50%
- ⑤大幅に増加(減少):(+) 51%以上